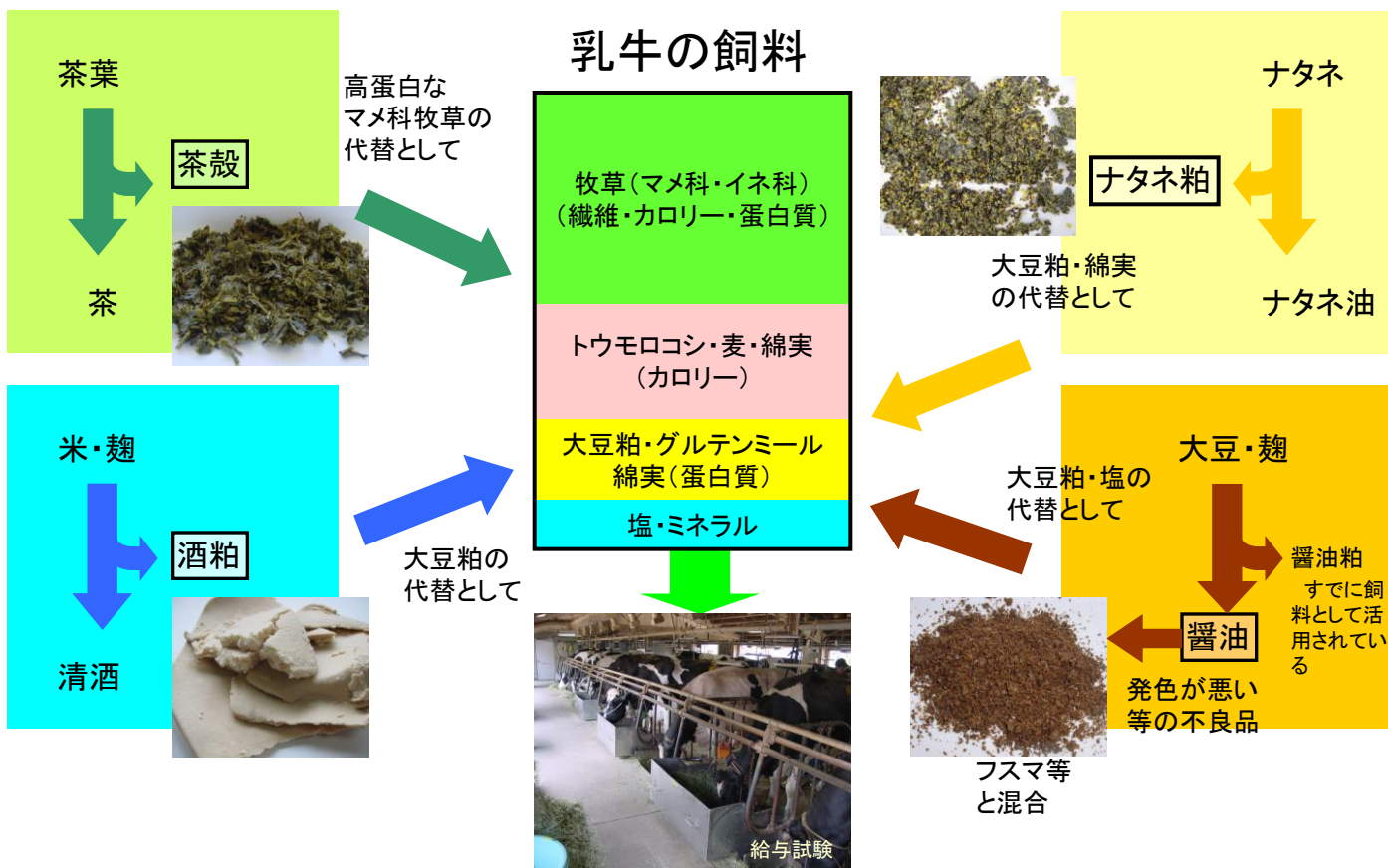


エコフィードで酪農の飼料自給率を向上させる

【背景・目的・成果】

本県には多くの食品工場があり、食品製造に伴い飼料としての利用が期待できる製造残さ(エコフィード)が大量に発生しています。エコフィードを酪農で活用することで、輸入に大きく依存している乾草や配合飼料を削減し、酪農家の経営安定を図ります。



当所における給与試験結果(平成20~22年)

エコフィード	給与割合※	飼料摂取量	体重	乳量	乳質	備考
茶殻	7.2%	増加	変化なし	減少	乳蛋白質向上 乳糖率、無脂固形分率低下	給与限界量の検討が必要
酒粕	5.9%	減少	変化なし	やや増加	乳脂率向上	繊維消化率向上 飼料として有効
ナタネ油粕	8.3%	変化なし	減少	変化なし	無脂固形分率、乳蛋白質率低下	飼料構成の工夫で 利用可能
醤油	6.2%	変化なし	減少	変化なし	変化なし	飼料として 給与可能

試験方法: 試験牛を2群に分け、1期14日間のクロスオーバー法(1期終了後試験区と対照区を入れ替えてもう1期実施する。)による試験を実施した。

※給与飼料全体に対する乾物重量換算

【技術の活用】

※
酒粕を含む発酵TMRは県内のメーカーで製造され各地に販売されています(写真右)。他のエコフィードについても、安定供給が可能であることから、乳牛飼料としての活用が期待されます。

※粗飼料と濃厚飼料を細断・混合し密封した形態の飼料

